

## 審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	乙 第 2939 号	氏名	竹 内 孝 仁
審 査 担 当 者	主 査	山下 裕史朗	(印)
	副主査	光い 慶一	(印)
	副主査	小田 亮	(印)
主論文題目 : Factors involved in the degeneration of lymphoid tissue in the appendix. (虫垂におけるリンパ組織の退行に関わる因子についての検討)			

### 審査結果の要旨（意見）

本研究は、虫垂炎ではない虫垂を用いて、組織学的並びにフローサイトメーターを用いた解析を行ってリンパ組織の加齢変化を検討した貴重な研究である。加齢に伴い、脂肪変性を誘導するが、繊維化は変化ない可能性が示され、リンパ濾胞組織は経時的に退化することが確認された。また、潰瘍性大腸炎患者の虫垂は脂肪変性に陥りやすく、その原因としてステロイド治療や繰り返す炎症の影響が示唆された。虫垂に関する研究は極めて少なく、潰瘍性大腸炎の発生メカニズムを考える上でも重要な研究と考える。

### 論文要旨

**【背景】** 虫垂でのリンパ組織は加齢に伴って退化するとの報告はあるが、そのメカニズムは明らかではない。**【方法】** 大腸癌、腸回転異常そして潰瘍性大腸炎の患者 8 名から切除した虫垂を用いて、組織学的並びにフローサイトメーターを用いた解析を行い、虫垂でのリンパ組織の加齢変化の検討を行った。**【結果】** 組織学的には加齢に伴い脂肪変性を誘導するが、線維化とは相関しない可能性が示された。また 5 生日、45 歳、75 歳の症例でリンパ濾胞を確認したが、79 歳、80 歳の症例ではリンパ濾胞は確認できなかった。フローサイトメーターによる解析では、5 生日、45 歳、75 歳の症例でリンパ球集団が明確に確認でき、79 歳、80 歳の症例でのリンパ球集団の確認が困難であった。潰瘍性大腸炎患者の組織像では、66 歳の症例で粘膜下脂肪組織が観察され、70 歳、72 歳の症例ではリンパ濾胞と粘膜構造が保たれておらず、フローサイトメーターでの解析でもリンパ球集団は確認できなかった。当論文では虫垂におけるリンパ組織は経時的に退化することを確認した。また潰瘍性大腸炎患者の虫垂は脂肪変性に陥りやすく、ステロイド治療や繰り返す炎症の影響する可能性が示唆された。